



列車から降りる生徒たち。車内は座席に余裕があり、間隔を空けて座るなどしていた。21日、鳥取市青谷町青谷のJR青谷駅

# 通学列車「3密」防げ

## 県立4高校で時差登校

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、鳥取県立高校4校が21日までに、時差登校を始めた。始業時間を繰り下げ、生徒が乗車する通学列車の選択肢を増やして列車内の「3密（密閉、密集、密接）」を防ぐ狙い。生徒からは「車内がすいていると安心できる」との声が上がる。

鳥取市青谷町青谷の青谷高は旧鳥取市内など町外からJRで通う生徒が多く、列車内の混雑を懸念。15日から、乗車列車を分散させる取り組みを行っている。始業時間を午前8時35分から同9時20分に繰り下げ、JR青谷駅で乗降する生徒は、従来利用していた午前7時台と8時台前半に到着する列車に加え、上りの同55分着と下りの同52分着の列車に乗っても間に合うようになった。

21日、同時刻に青谷駅着の列車には、間隔を保って座席に座る生徒や一般乗客の姿が見られた。2年の女子生徒(16)は「前はぎゅうぎゅうで座れないことも多かった。すいている方が感染を防げると思う」といい、3年の女子生徒(17)も「距離を取れるので、気持ち安心」と話した。

県教委によると、鳥取西や鳥取湖陵、米子東の3校も同日、同様の取り組みを始めた。一斉休校に入る前日の24日まで実施し、効果を検証。混雑解消に効果があると判断すれば、5月7日の学校再開後は実施校を交代しながら続けるという。(渡辺暁子)